

和通語

秋子部下

十

9
4062
10

門 9
號 4062
卷 10

論語卷第十目錄

秋氏部下

圓朝

良兼

增基

完助

顯尋

兼憲

守禪

經譽

禪正

慈基

等栗

慈源

憲守

經耀

傷助

尋忠

尊覺

任意

忠秉

義亮

性守

祐嚴

良鎮

義賢

隆壽

隆憲

公順

宗助

覺嚴

公譽

俊清

隆秀

道真

良譽

教玄

業基

湛園

勝園

澄修

道悟

真盛

超譽

覺譽

兼覺

政玄

尋園

隆惠

秀馨

公範

禪意

真玄

毫覺

天覺

策度

存海

道喜

尊賀

澄修下

堯然

道子

同上

倭論語卷第十

新戊部下

國朝曰生死といとす。至念云々乃時かづ
て。と云ふと云ふところにて。あさうむらあ
らん。是一大事なり。要なり。学を志しひる傳授
よくせむおにまゝいぬ

名越遠江守平朝時三世平宗教男也玉
作撰法下諸道通達之人也号大通院
禪正曰凡学文乃近近ハ向教にあると云季乃
うひるうつらふる来のみと云拈来此あり

さゆ。さゆのふにさるるをさまはてとのまら
うみ。神乃あつさまに及がーさるるみ。時法。
男一始。あて。悉あさるるなり。

伊勢肥前守平盛富五男也一生不犯大藏經
二度色身空_ニ空_ニ自然良智人_ノ

良薬曰。琥珀りる。吸ふ。朽多る。吸する。吸。滋
人よりを吸ふ。先人よりを吸ふ。吸。人より
あく邪曲なる人よりを吸ふ。とわく。人より
て。可する。人よりを吸ふ。とわく。人よりを
る。人より。大道を。吸ふ。人よりを。吸ふ。人より

從一位関白兼嗣子二男也号_ス一宗院_ト

慈基曰。佛者乃儒之仁也。儒者乃佛之智也。
異端也。と云ふ人々あるも、仁と智とありて
儒者にあらざるハ二なり。一は仁を失ひて
なり。二は智を失ひてなり。吾人として、
仁と智とを失ひて、外あれば、心ならず

関白兼平公六男也。延暦寺法勢大僧正号ス。
止觀院執行生身明王并見傳密下。
増基曰。学文乃る。ぬえ。不。量なり。と。し。
と。と。毎日。其の。事。よ。む。ら。ひ。ぬ。ま。は。し。る。ハ。り。

あゝあはれと云ふ人。放たぐいわの
仏も是はおろ佛の禪、るべくを
ぬいて偽あり。おやの子成あひさるひびき
多くほふ事なごころぬし。あらぬ心をも
うなふ心を理のうらまへにむかへて通ふ。
そひなり。人の道をおもふ事かな。さう
に出る諫言なるをや余の事乃その道を
すらおもふ事ともてふ。われこそ人
なるならひなるものなり。若くしてやーと
いう。これよりあつちまでいまだひたり。

まゝに家

衆議從三位文章博士少納言友原在永二
 男也。大僧正号仁和寺理證院下兼顯密禪
 意源曰。人成佛をうむなんとおもひ。男をも
 女をもおもひてよ。男とあり。女成り。いふれ
 る人。此成佛をうむなんとおもひ。女もいふれ
 る。成ぬさす。して。例のそと。う玉を。いひ
 がや。い。世智恵を。あつ。一宗。乃。学文。をも
 人。少。も。得。ま。う。つ。と。お。も。ひ。う。僧。い。う。る。を。と
 う。あ。ら。ひ。う。ん。大。衆。の。教。い。ふ。衆。乃。幼。者。と。い。ふ。

妙なりとく。男いへあうかの着。一はは味を
あつて人のうらま。どのまうをまうせうひ
り。あふぬるのまうとあうひ。まう人
みうとも恐まぬとあうひ。

菅原淳仲朝臣、二男也。横川、長吏、竹林房

回峯、三千日、称生身、不動、傳、密、下、

顯、尋、曰、世、み、て、大、勇、あ、う、れ、法、を、と、ろ
ろく、智、識、あ、う、ろ、く、や、う、ろ、く、ひ、う、ろ、く、と、ろ
つ、ろ、く、あ、う、ろ、く、世、み、て、法、す、と、ろ、あ、う、時
か、ろ、く、あ、う、大、勇、持、え、あ、う、ひ、み、て、

よはとあす。まうて。ひう人あうて。ば人
なり。人のあうぬ。あはは。ひうの。治。世。う。と
は。望。ま。う。時。り。あ。う。一。ま。う。り

左、少、將、藤、原、氏、統、朝、臣、三、男、也、顯、密、通、進、人、也

憲、守、曰、右、少、く、れ、も、僧、人、い、ろ、孫、一、兄、の、う
ち、あ、う、結、の、程、あ、う、ま、う、て、あ、う、ま、う、一、人、の
う、ま、う、僧、あ、う、ま、う、て、あ、う、ま、う、あ、う、ま、う、あ、う、
あ、う、一、人、い、ろ、ま、う、ひ、ら、う、人、の、あ、う、ま、う、と
み、代、を、ま、う、一、か、ら、ぬ、う、二、は、あ、う、ま、う、の、佛、の
あ、う、一、は、あ、う、ま、う、あ、う、ひ、と、あ、う、ま、う、れ、也

智へりしや。男のまゝ。りしゆく。并三。
奇秘。紙の。賤家に。みり。貧窮を。や。え
富貴を。とり。ひ。なり。く。し。の。す。み。
わ。ま。り。し。ま。の。と。時。の。名。を。傷。ぬ。下。

横河長史權大僧都法下憲基男也
光院大僧都法下

秉憲曰。おろく。み。の。り。う。人。を。後。ら。ん。と。し。
家。業。を。あ。ま。る。く。け。と。免。と。る。下。ど。ろ。の。う。い。
大。命。の。賊。あ。り。て。な。く。い。う。か。へ。ん。人。の。ま。ら。

み。戒。力。を。ま。る。く。し。富。貴。を。し。ま。し。め。る。含。め。る。
ま。り。て。な。難。い。人。お。わ。く。と。や。あ。る。か。は。は。い。
さ。あ。ま。り。し。て。身。を。あ。や。し。め。く。な。が。い。世。を。
あ。ひ。か。る。と。き。お。ろ。く。み。の。お。ろ。く。な。り。

山徒權大僧正二任法下憲玄男也大僧都法
下大樂院

經耀曰。人。を。念。な。る。時。に。心。也。有。念。な。る。時。に。邪。を。
り。邪。へ。ん。の。し。や。し。極。つ。る。お。い。ひ。人。の。お。い。ひ。
ろ。ろ。か。如。か。り。世。を。あ。ま。る。く。し。正。を。あ。ま。
お。ろ。く。し。し。邪。に。面。白。く。る。人。の。ま。

かこふくふ。ふいむ。う。う。て。人の。う。あ。さ。
故。なり。面。む。事。さ。き。う。さ。た。く。い。や。あ。る。言。い。ふ。ん。
あ。さ。の。う。う。あ。さ。す。も。天。下。の。さ。う。う。や。る。人。
なり。ず。

權大納言藤原經長子也三井大僧都顯

密兼字一生不対不犯

仁和寺の守祿法。元。た。よ。か。さ。ら。き。一。人。毎。う。
か。う。う。ぬ。り。の。な。さ。い。あ。よ。む。う。さ。さ。の。き。
の。と。さ。ら。て。可。う。事。さ。の。じ。ま。い。さ。なり。
お。お。の。さ。れ。い。う。う。う。の。解。根。事。を。さ。れ。い。

良知明。う。て。や。さ。一。其。時。可。の。事。自。在。なり。
い。う。く。并。一。さ。さ。う。法。の。時。の。智。識。と。さ。い。
一。案。の。事。は。能。く。い。ぬ。る。僧。を。人。と。恨。ま。わ。る。
い。め。め。る。法。え。い。何。あ。よ。い。ち。う。字。又。と。い。ま。け。る。
事。さ。や。と。所。腹。う。う。ゆ。る。出家。と。なり。ぬ。る。け。う。
は。あ。さ。い。い。と。や。め。可。全。款。は。無。懸。う。佛。の。る。
う。さ。か。う。の。さ。い。お。道。の。事。と。す。う。一。并。く。さ。
さ。お。の。ま。い。さ。う。う。り。の。と。あ。い。あ。う。さ。う。
あ。さ。い。い。乃。月。日。氏。お。う。が。さ。又。う。あ。え。
さ。なり。あ。う。と。時。の。信。人。を。後。生。う。く。お。い。

慈悲を心垂も出家はまゝなり。わがなり。うづ
うからせ。女成り。やうに。後。うづ。う。僧。ハ。大
なる。罪人。なり。地獄。は。あつ。て。ま。の。い。と。時。は。信
なり。人。と。い。ひ。み。ら。る。べ。し。あ。る。う。う。あ。ま。の
あ。れ。信。家。多。に。り。あ。ん

中納言藤原為経の子也。年三。来。定。来。

来。之。安。居。園。人。と。

東大寺乃。傷。助。曰。世。は。多。と。文。虫。と。い。う。く。学。む
て。ん。う。と。佛。の。宮。ひ。し。中。は。あ。ま。時。ひ。あ。る。る
を。一。つ。は。あ。ひ。ゆ。う。し。智。恵。を。文。と。通。へ。う。人。ハ

大。か。と。可。乃。中。と。い。う。知。道。と。も。あ。れ。終。と。ハ
あ。ぬ。わ。ら。な。り。廣。学。な。る。い。う。る。あ。ま。や
ひ。う。乃。人。の。い。ひ。屋。う。に。あ。る。ハ。佛。一。代。乃
説。法。と。あ。い。か。う。と。も。一。つ。と。明。に。と。ん。り。と
す。こ。と。や。と。う。と。も。実。に。う。る。い。と。も。廣。学
と。う。と。あ。ま。の。ハ。智。恵。と。う。う。と。く。物。は。独。て。い
あ。あ。り。方。ハ。な。り。と。う。と。の。な。り

權中納言俊實卿子也。十三歳之時。拜。文
殊。而。得。自。然。智。

真福寺乃。經。言。信。心。七。年。乃。時。より。親。と。あ。る。と

東大寺^{とうだいじ}の忠信^{ちゅうしん}公^{こう}曰^{いはく}佛^{ぶつ}はじつひてあつたこと
乃^なもあつた。能感^{のうかん}應^{おう}あり。智^ちふ事^{こと}もよく公^{こう}の志^しを
あつた。わが心^{こころ}に落^{おち}きうかへらるゝあてみづから
る^う。親^{おや}の佛^{ぶつ}心^{こころ}のよりして一^{いつ}なり。

正二位中納言藤原冬房（三男也）并弥陀来迎
 奥福寺（三男也）覺曰（法）遍執（ある）偽（偽）魔界（入）
 魔界（入）力（力）す（る）もの（ハ）多（く）て佛界（入）入（る）もの（ハ）少
 一（一）。魔佛（一）如（く）親法（代）あり（る）もの（ハ）大方（ハ）魔の
 子（子）なり。魔の（子）とす（る）偽。人（人）是（是）と（と）や（や）

用て世をさへやとふあり。魔界に入るとなり。
 仏界に入るとなり。のれは貪を断りて人となり。
 ひも又いふく魔界に入るとなり。或は断りて人となり。
 一衣を脱ぎて入るとなり。或は断りて人となり。
 佛ありと事あること。富貴一の世事を断りて
 佛ありと事あること。富貴一の世事を断りて
 佛ありと事あること。富貴一の世事を断りて

閔白忠教公三男也号龍花院

任に意い曰いは破戒はくがいなまじりて慈悲ひいきあらずさんかろし
大だい小せうのゆるなり。お戒がいかい面めんも慈悲ひいきあるさんか
仏果ぶつぐわいをゆるすべし。慈悲ひいき乃すなはち仏ほとけ正ただ法ほうを信しん

あやとがるふりゆふとにえわうのふゆのち
くらかりそて海海一移ひぬる身は親き来
て移ひてを親人のをふれあすふりといはれ
室は入るどらんかとの中とてふ人ゆふ一と室
ひしきとて身とてあきる果てて世の長八寸
うら乃親き乃金色なりといふやうのうみ
えとけりな佛壇乃よとおふきそのその像あ
そくうなりなりけりなぬ一義賢此をかんとお
まはすといふ交交中ふつあきる留移ひ
うみしとてふ言もはるまじひくうとせの

移るなりつあらとてなれとて義賢うつく親堂なり
つーやなわづるるやあうらんといふなり
是利左兵衛持大納言源満詮三男也
号三宝院六僧正准三官
横河隆秀曰し時ふは五なるふの身を中は漢家
に移る事とて何ふ勸る事となさるなり
佛の内院あしぬておろかなき方法は是也
其の年一なる事とてふりてその親中乃格は
うつとて天下に乃ひきうけを成すの事といふ
てゆらんハなりと物の中乃室中一なり

從二位隆政卿五男也号横河大僧正又号

治

隆憲曰智藏ハ智藏よりつゞき忍忍ハ忍に喰ひ
流石の藝者ハやみ藝ハ喰ふ。名一切ハ中ハ喰ハ
かきあふ人あふ市中ハ虎ナリヤ

從二位權大納言藤原隆遠卿二男也号光

明院僧正諸道通達之人也

云順曰人ハむくわろくぬきの世ハ多し同き所
そのまづヤも漁も失はれりなりなりハ是
とさつひ乃門古ハ是禍ハ根なりとさつなり也

を人ハ世のまづと世のまづなり。それなり
後とさつハ一なりとさつハ一なり。物と

九条金頂寺別當禪觀二男也哥人号謙

律師

醍醐寺宗助僧正曰此法四重五逆をすはし
傷の大罪とみくかりて後をすくす。中ハ内
必乃諸司ありし人の子母ありてあけろ。同性
の人れをさる。大なる及く此人をせ。たふさん
とせし時白雲山の僧ありとさつなり。さうと
てたり。つらう傷やせめてその通。慈悲のこ

ふいふく人のおさげをいひあすぞわとあ
さましく美作のいふ就尾乃傳とみいふく石
山寺人まうてなつに就尾乃傳とみいふく石
世よあつたのいふく世も能くうりぬ世よあつたし
人よあつたといふく世も能くうりぬ世よあつたし
うも能くうりぬ世も能くうりぬ世よあつたし
は乃人まうてなつに就尾乃傳とみいふく石
あつた人又あつたとおもひいふく山の傳と
尾の傳と。年法久しくうりぬ世も能くうりぬ
と。うりぬ世も能くうりぬ世も能くうりぬ

り悪人なりとそくをいひぬりぬ世も能くうりぬ
ひの出家乃。後乃世も多かるんそくをいひぬ
象の出家乃。後乃世も多かるんそくをいひぬ
中御門中納言藤原宗重と弟也号理性院
覚嚴曰。なんともいふ人とおもひいふく世も
と。うりぬ世も能くうりぬ世も能くうりぬ
なり。貴人ハ夫の存つてゐて一世の事いふ
と。うりぬ世も能くうりぬ世も能くうりぬ
さういふと能くうりぬ世も能くうりぬ
からんとは免ゆ

園中納言基隆の四男也延暦寺僧都廿一歳之
時化得自然智人也

公嘗曰人貪るは世の最も深き病なり富貴を
いふの業よりなり夫の病なるを治して下位
なりしをまた上位のありとせばなりぬ後人のい
まめとすは独り人の智徳あらんものか貪るを
うやむいふは下位なり又その病なりとてなり
ぬるは人を知るあり

内山僧正右大弁賢房の二男也一生貪友不
律貴人也俗号地藏堂の薩

俊清法字曰公家以乃病あり主友の人なりと
そと世よりあるはかんきんはひりし世にこれ果代
の多家よりを不礼なり武家より病あり主法を
かりん一友位とありし武家より病あり主法を
つうてたくりし人の罪をかうべ三家の病
は主常丸とありし時何を平略とありしなり
從一位大納言藤原資經の四男也贈大僧正号
佛地院大藏兩度一生不犯
興福寺別當隆秀僧正乃いづく何すしその病
人の人ともふさむとさゆふなりぬる

うつと物かうりハす物ありき。よきくハ知る事と
てをいふ。ふさあぬ処ある人よがらん。ひと
ものゝ世の経ありつゝぬまの城をぐりて物
ありきや

道真曰長む西堂の号ハ友佐ハあはれに出家
て乃稱号するに法堅にあらむてつるまふ
らやも出く申こと。時の出家ハ名をといふ
ゆり男になきは四位六位乃あふ人まてを
そのまふ。下と海のものともみり。あうそく
俗も出家も。そめ位に懸してそくいぬりて

人ありき。人ありぬ世とわいふん。笑しといふん
懸てある人。人鏡論よりそくつり。若貴金
語り。世のありとゆなり

圓白房嗣二男大僧正准三宮聖護院新

熊野檢校

良基言曰人の心をあらう時。万のすかの内なり。心
り物もの。のへをま移。不なり。か家がゆへん。心
あうて。人たの。す。ハ方い。て。心。苦
ま。つ。や。う。て。あ。う。れ。人。の。心。人
近來圓白院家二男一孝院大僧正法賢

如十連ハ。多為の法親ハ。そのつゝ。如能也

開白經教ハ。八男也。二号院住持

各悟曰。六親ハ。姪す。そのい。なる。如能也。つて。既立ハ。は。七の。災あり。に。その。個。而。人。に。貧。窮。一。二。に。患。病。と。く。ふ。なり。三。より。つ。人。み。地。獄。ハ。落。下。ハ。い。ひ。の。人。世。多。時。ハ。大。苦。う。そ。を。そ。ふ。大。苦。あり。お。い。諸。天。吾。神。と。の。個。ハ。あ。く。あ。く。い。ふ。は。ま。ふ。ふ。実。う。せ。ふ。人。の。を。不。あ。り。て。個。家。み。う。う。なり。天下の。月。さ。う。ん。もの。う。い。へ。あ。う。べ。い。

開白政基ハ。三男也。号。三井。長吏。者。満院。明。

地。形。人。也

真。盛。曰。今。佛。三。昧。ハ。入。ぬ。也。い。後。も。な。り。ん。現。て。三。世。の。諸。佛。も。目。撃。に。あ。ひ。な。り。も。う。く。の。神。通。も。つ。結。り。留。め。の。身。ハ。ま。り。移。い。ぬ。吾。日。在。妙。神。ハ。同。伴。い。う。り。移。い。く。も。い。い。お。い。ひ。の。ま。う。な。う。う。い。め。そ。ま。り。金。佛。と。い。ふ。世。の。う。ま。に。み。う。人。ハ。さ。う。り。の。山。ハ。入。り。う。も。浅。じ。う。あ。り。て。か。ま。う。う。う。一。お。い。く。一。四。生。と。み。ら。む。さ。て。来。世。金。佛。の。お。い。ま。ふ。床。の。や。り。ふ。事。く。不。信。う。う。を。あ。ら。ん。時。一。を。乃。内。よ。今。大。修。公。の。い。者。と。ま。を。今。若。一。を。り。み。さ。と。め。ん。

ものなり

三河國岩津城主安城和泉守源信光男右衛門
亮親忠五男也知恩院上人松平次郎信忠叔父也
覺くぐ言曰人あづきも時ひきの様みじし富とみ貴たかなま
時のやの音おと落おちさうれり是天理てんりなり富貴ふき貧賤いんけんを
天なりとしひくむしと人のあま運うゑにそめなる
る一夫の吾われなり昔むかし誠まこととして福ふくとりありぬ。あ人も
いふ我われともして大誠たいせいなきは。あ吾われともして福ふくを収もちへ
いふ志こころ蘭子らんしともして夫大誠たいせいゆへにおもひがたし。る氏うぢは
夫らともして後あとあ誠まことさるものうつせわなり

く。人の有りやりの徳とく。あつたさうにす。仏
神の親いつやあて。深歎しなるるんあさし。の
あはるあまして。あまのさうす。万のうみく
り。あつと。天地のるもろろ。あつ人

関白尚通云。西男東大寺准后大僧正改。義俊

文徳人也

真玄曰。生家と士は。けり。貪がろ。徳のなる。富
き。あつ。癡の。あつ。生家と士。あつ。あつ。あつ。あつ。
人。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

佐。貴管領源。頼朝。長。四男也。十九。之。時
取。領。不足。其。家。住。教。山。号。正。光。院。又。通。僧。而
念佛。三。昧。人。也。江。州。東。近。寺。開。山。也。

ちりて。万の事。あはれ^{これ}こころなり。はれ^{あし}たもつらうな
 らも。あはれ。万の事。あはれ^{これ}こころなり。

後柏原院中四洲子玄弘和寺号上宗院母尚侍繼子中納言入道永繼之女也

良怒ちよど法親王曰いふを代しろるべく人の張ちやうきなり甲斐かい乃すなはち
武田ぶたに信玄しんげんと良持りやうぢなりと。是良りやうゆふあり。漢かんおぢお
智仁ちじん勇乃ゆうの三さんおきと良りやうゆふあり。人乃ひとの弟あに乃の孝かうの
乃のす。さきのいふ良りやう進しんハ良りやうゆふとくふ。さならハ良りやう家け
の良りやう一代いちだいの院いんと定さだよそくとも。礼れい約やく一いつありハ是こゝと出家しゅつが
と。んや。みえおきうもの人ひと孝乃かうの一いつ此こゝ要いよりあを

清家秘本之中秘也門外不出
縱雖爲當家庶流不可書寫之
種律國之寶鏡也

傳同いゝ一溟濤乃蒼海一三輪金
光ありて浮浪ああ光はちひらき陰陽
うねゝとて三輪乃金えはれく三光
光神なりてうねひにあらはれし
一神國よりあまの皇子にまゐりて一刹
おの系秘秘瑤一て未嘗秘草相流も又
あつたを圖浮る乃ち豈有めを玉流く
滅乎とれを日域を根ちて下度支那

と枝葉もせむと良き中か作か即神代乃
け免る世このなそめ神祓あり神武天皇
らね多相院より及ひ清ふれをききしそ
免てゆくくくく人きみさるもれ一神代
兼久手中清原良業此書を教諭に傳へ
一六上皇のめれらあふふいゆりて良業
に作く今よりね上天子より庶人まで
秘をばんとせきききむふふふのりきき

戸て兼て久ききききけ免る人きき
き乃今よりきききききききききき
即乃あふ花ふ武王林に突のく人きき
世はははははははははははははははは

洛東山隱士羽林長嘯子誌

寬文九己酉 稔田陽月良辰日

四條最小路西入町

板元 尾張屋勘多郎

二條鼓屋町東入町

山本長三郎

新町松屋町東入町

海老倉孫多郎

弘西

